

令和2年3月号



学校教育目標

# 十二月田小だより

進んで学ぶ子 仲良くできる子 たくましい子  
児童数 男子497名 女子461名 計958名

川口市立十二月田小学校

川口市朝日1-11-1

TEL (048) 222-4383

FAX (048) 222-9388

㊦っかりと聞き・㊦くわく未来を語り・㊦すんで学び・㊦れにも仲良くできる しわすだっ子

## 一生懸命 楽しむ 思いやり ～ 浦和レッズ落合 弘キャプテンの熱い思い ～

校長 石井 宏明

「誰？このおじいちゃん、って思っただろ？」「オッケー！」「一生懸命に話をするから、みんなも一生懸命聞いてくれよ。」「思いやりを発揮してくれて、サンキュー！」

気持ちいいぐらいに歯切れよく、飾らない言葉。熱い語りに入れられた熱い思い。

浦和レッドダイヤモンドズハートフルクラブの落合弘キャプテン(サッカー元日本代表キャプテン、サッカー殿堂入り)の講話。

立場上、毎年講話を伺うことができますのですが、その度に感銘を受けてしまいます。それだけでも感謝、感謝、です。講話の骨子は3つ。「一生懸命」「楽しむ」「思いやり」

「一生懸命にやらない子は、もったいない」「一生懸命やった先に楽しさがある」「どんなに上手くても(技術があっても)、思いやりのない選手は使わない。チームがバラバラになるから」「いじめ、相手を悪く言う子の気持ちはわからない。なぜ、そんなことを言えるのか。」

そのことを、サッカースクールでのエピソードや東日本大震災の被災地、東南アジアをはじめとする諸外国を訪問して感じたことを交えながら伝えていただきました。

特に「幸せの国 ブータン」の子供たちの話。笑顔のあいさつに入れられた心。みんなの幸せを互いに実現しようとする気持ち、等々。

次々に飛び出すキーワード。「小学校時代に苦労をしないと、大人になった時の壁を乗り越えられない」「言葉の力」「話を聞くときは相手の目を見て聞くのが基本」「基本を疎かにする者は、何も成し遂げられない」「トイレのスリッパをそろえるのは、なぜ？」等々。

どの言葉が、しわすだっ子の、加えて教職員の心に刻まれたのでしょうか。

当然のことながら、その後のサッカー実技は、「一生懸命」「楽しむ」「思いやり」そのもの。全力プレーはもちろん、得点後の「ナイスシュート」、失点しても「ドンマイ、ドンマイ」に加え、ドンマイタッチ、プレー以外の「ワサビ！ワサビ！」「キムチ！キムチ！」の大コールなど、普段は控えめな子もしっかりと体現していました。もちろん、5人の担任も子供たちと一緒に楽しんでしまったことは言うまでもありません。

私が感心したのは、まずは落合キャプテンのオーラ。その道のトップレベルの人だけがまとうことのできる雰囲気。子供たちだけでなく、私たち教師も聞き入ってしまうほどの、人を引き付ける力です。

「私たち大人は、相手が子供であっても(理解できそうもなくとも)、伝えなければならないことは、きちんと伝える」

次は、コーチの皆さん。サッカーが上手いのは当然といえば当然かもしれませんが、子供たちの心のつかみ方、話の簡潔さ、明瞭さ、そして人を巻き込む明るさです。

その日初めて会った子供たちの心を瞬時につかみ、よりよい考え方、行動に変化させる力。

しかも、子供たちが、それを楽しみながらできるようにするコーチング技術。

これらのスキル、人間性は、私たち教師も教育のプロとして見習わなくてはならないと、毎回感じています。

時代、立場は変わっても、やっぱり子供たちをよりよく育むのは「人」ですね。

さあ、これからも保護者・地域の皆様のお力をいただきながら、私自身も「しわすだっ子の笑顔」のために、「一生懸命」「思いやり」で楽しもう！